

Book Review



歯科臨床画像診断の チェックポイント

勝又明敏・神部芳則 編著

● ● ●

Reviewer

浅海淳一 ASAUMI Junichi

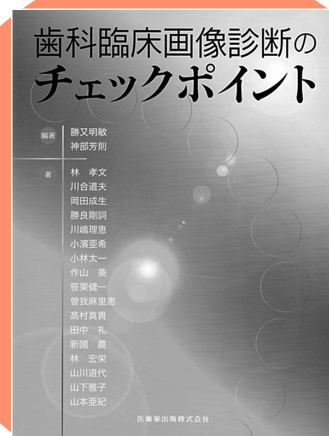
(特定非営利活動法人 日本歯科放射線学会 理事長)

A4 判変, 216 頁

カラー

定価 (本体 12,000 円+税)

医歯薬出版刊



一般歯科臨床において、画像診断は臨床診断を行ううえで大きな武器です。本書は画像診断のチェックポイントに関して、パノラマX線画像を中心に多彩な画像や図を使用して解説しています。各領域の専門医が貴重な症例、臨床経験や知識をもとにCTやMRI画像も加えてわかりやすく執筆しており、一般臨床医が日常臨床に携わる際に参考になるとともに、歯学部学生の勉強にも適した内容になっています。

臨床編では顎骨骨折や歯の破折・脱臼等の外傷、顎関節症、過剰歯、埋伏智歯、正中過剰埋伏歯、インプラント、さらに歯科医も知っておくべき隣接領域の上顎洞、唾液腺、リンパ節や軟組織所見、全身疾患である症候群の所見、顎骨炎症に関して説明してあります。加えて、基礎編では臨床医が知っておくべき歯科画像診断をX線発見から口内法、パノラマX線画像、歯科用CBCT、デジタル画像診断骨の計測(骨密度)と形態解析、放射線防護の概念と幅広く説明しています。

超高齢化を迎え、歯科の日常臨床で口腔癌に遭遇することが多くなってい

ます。口腔内所見も重要ですが、加えて画像所見で確認することにより、確実な臨床診断を行うことができます。

骨折に関してはパノラマX線画像で骨折線の見方を、3D画像で視覚的にわかりやすく示してあります。骨折の典型的なパターンや歯の外傷の口内法X線撮影による的確な撮影方法や、歯科用コーンビームCTの役割と欠点も示してあります。

顎関節症では、MRI検査依頼、キー画像、主な顎関節関連疾患の画像診断(筋突起過長症、咀嚼筋膜・腱膜過形成症、顎関節滑膜炎性骨軟骨腫症、リウマチ性顎関節炎)をあげています。

埋伏歯に関しては、埋伏智歯の歯冠周囲炎、下顎管との関係や含歯性嚢胞の所見を、正中過剰埋伏歯とその含歯性嚢胞の所見を示しています。上顎洞炎やその他の副鼻腔(篩骨洞、前頭洞、蝶形骨洞)、各種上顎洞疾患の画像診断(術後性上顎嚢胞、粘液貯留嚢胞)に関しても示しています。

インプラントに関しては、CT画像のシミュレーション/ナビゲーションシステム、注意すべき解剖学的構造、サイナスリフト、迷入、下顎管との関

係、金属アーチファクト、CT再構築画像の作成、CBCT撮影時の注意、ウィンドウ幅の調整にまで言及しています。

唾液腺やリンパ節の疾患では、CTやMRIを使用して唾石症、ガマ腫、リンパ節やリンパ節転移、ミクリッツ病、シェーグレン症候群を、軟組織疾患の超音波画像診断では口腔外、口腔内超音波走査で根尖性歯周炎、顎下腺腫瘍、顎下腺炎、舌癌を描出しています。また、パノラマX線画像とセファログラムで鎖骨頭蓋異形成、基底細胞母斑症候群、ゴーリン症候群、ビクノディスオストーシス、進行性顔面片側萎縮症、ピエールロバン症候群、ダウン症を示し、注意したい異常像として下垂体窩拡大、気道幅縮小に関して記載しています。最後に顎骨の炎症の画像診断パノラマ、CT・MRI所見、なかでも放射線性顎骨壊死、薬剤性顎骨壊死に関して説明しています。

以上のように、一般臨床医が日常臨床に携わる際に参考になるとともに、歯学部学生の勉強にも適していると推薦できる書となっています。